

平成30年度 大豆作情報 第1号

平成30年7月20日

宮城県亙理農業改良普及センター
NOSA I 宮城亙理名取支所

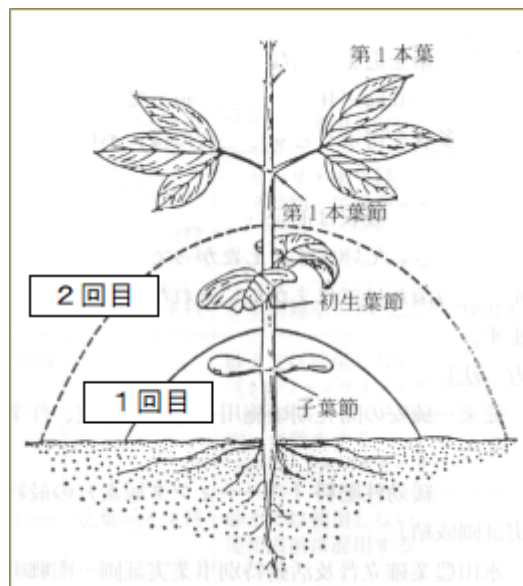
電話0223(34)1141 FAX0223(34)1143
電話0223(34)5031 FAX0223(34)5032

1 中耕培土

- 大豆の生育向上に向けて、適切な時期に中耕培土を実施しましょう。

○中耕培土の効果

- 培土部分からの根の発生
→養水分吸収、根粒菌の窒素固定増加
- 倒伏防止
- 除草効果
- 通気性の改善



播種時期

回数

タイミング

普通栽培

2回目安

①大豆2～3葉期：子葉節まで

②大豆6～7葉期：初生葉節まで

晩播栽培

1回目安

大豆5～6葉期：子葉節まで

- 中耕培土は開花の10日前までに行いましょう。遅い時期の中耕培土は根の切断、花や莢の傷み、また分枝が機械に絡まることで倒伏を助長する場合があります。
- 株元に土が寄らず、培土の頂点部分が『M字型』にならないように気を付けましょう。水が溜り悪影響となる場合があります。

2 追肥

- 湿害で葉色が薄い、生育が極端に悪い、根粒菌がついていない場合には、最終培土時に緩効性肥料(「LPコート40」12kg/10a程度)を追肥します。
- 窒素過多の場合、根粒菌の働きが抑制されるため、生育が順調で根粒菌がしっかりしている場合は必要ありません。
- ミヤギシロメでは蔓化(つるぼけ)、倒伏を助長する場合がありますため、注意しましょう。

3 雑草防除

- ・ 播種時の土壌処理剤の効果が落ちてくる時期です。後発雑草に対する茎葉処理剤施用を検討しましょう。対象となる雑草を確認し、薬剤を選びましょう。

○主な対象雑草と除草剤

対象：イネ科雑草(ヒエ等)	ポルトフロアブルなど
対象：1年生広葉雑草	大豆バサグラン液剤, アタックショット乳剤など(注)
※非選択性除草剤(大豆条間散布)	バスタ液剤, ザクサ液剤など

◆(注) 広葉雑草対象の除草剤選択の注意点

アタックショット乳剤

- ・ 大豆バサグランの効果が低い草種(シロザなど)に効果的ですが、大豆バサグランの効果が高い草種(オオイヌタデやアメリカセンダングサなど)には効果が低い剤です。対照草種をしっかりと確認して選択する必要があります。
- ・ H30年2月に新規登録された茎葉処理剤です。大豆に対しては、葉の褐変や生育停滞などの薬害を生じることがありますので、対象草種の確認や大豆の生育状態などを検討した上で使用しましょう。特に他の剤との混用は薬害を助長するため、混用は避けます。

大豆バサグラン液剤

- ・ 除草効果は 1回目の中耕培土時(大豆3葉期頃)が最も高く、以降時期が遅くなるほど低下します。早めの散布を心掛けましょう。
- ・ 散布後の 日照が確保されるときに散布しましょう。散布後に曇天や降雨が続く場合、効果が劣る場合があります。

!! 難防除雑草にご注意ください!!

- ・ 近年県内で、**アレチウリ**、**帰化アサガオ類**、**オオスタクサ**、**オオオナモミ**、**イチビ**などの難防除雑草の発生が増えています。
- ・ 難防除雑草は、多発すると防除が非常に難しくなります。見つけたら早急に対策が必要です!

～難防除雑草対策の鉄則：①入れない! ②広げない! ③すぐに対策開始!～

- ① 難防除雑草を知ること。ほ場周辺に目を配ること→畦畔などほ場周辺から侵入します。
完熟堆肥を使用すること→未熟堆肥には雑草種子が含まれる場合あり
- ② 雑草の種子は「機械作業」で広がります。ほ場間の移動時には注意しましょう。
また蔓延ほ場から周辺ほ場への侵入に注意しましょう。
- ③ 侵入初期に、薬剤処理・手取りを含め徹底的に防除。蔓延してからでは取り返しがつきません。

見慣れない雑草を見つけたら、普及センターにご相談ください!

農薬危害防止運動実施中 (6月1日～8月31日)

『農薬の使用前に もういちどラベルを確認!!』